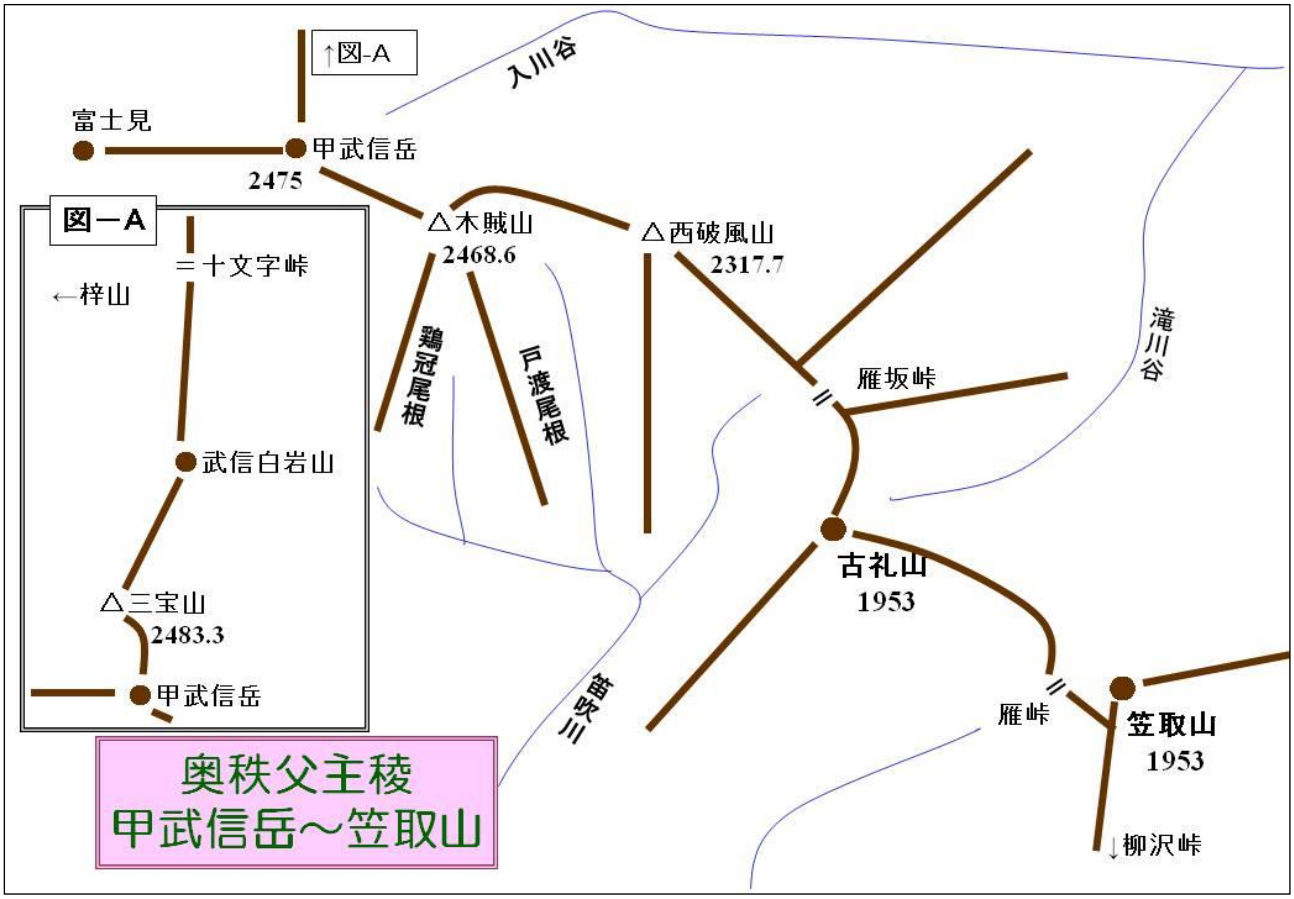
踏　み　跡　＜ My mountains ＞

奥秩父	笠取山～甲武信岳・十文字峠縦走	No.029

サラリーマンになって二年目の春、M デパートの電気室に勤める加藤幸男君は我がクラスで何人目かの登山家となった。彼との第一回目の山行が実現した。
この頃の彼の服装は、チロリアンハットにプリントのカッターシャツ、コール天のチョッキ、古い学生ズボン、キャラバンシューズ。
＜後日談＞三年後の彼の服装は、青い小僧帽に純毛シャツ、純毛のニッカー、白いストッキング、革の登山靴。いつもカメラを忘れず、自分で焼いた写真に酔いしれる姿だけはずーっと変わらなかった。



昭和 39 年 5 月 3 日（快晴）
中野発の臨時列車を使うことにしたのだが、ゴールデンウィークのため定員の三倍という超満員でデッキに立ったままで三時間。塩山から3時20分発のバスで裂石へ向かうのに、これまた満員。
裂石到着は3時50分、気温は9℃。晴れてはいるが半月の乏しい月明かりの中でまずは朝食で腹ごしらえ。
出発は4時40分、青梅街道を歩いて柳沢峠を目指す。途中でトラックに乗せてもらっていくらか楽をして、海抜 1470mの柳沢峠に5時30分に到着。気温8℃、雲の帽子をかぶった富士山が雲海の上に出ている。
長い斉木林道に入る前に少しばかり休憩をして、5時55分に出発。
つつじで有名なここも今は人気（ひとけ）がない。緩やかな傾斜で登ってはいるが、緩やか過ぎて実感としてはかどっているような気がせず、さらに列車の中で一睡もできなかったのがたたり、時々歩きながらうつらうつら。途中二度目の朝食は7時40分～8時40分、場所はどこだったか覚えていない。
倉掛山の北側の白沢峠に9時55分着。ここは笛吹川の谷間から多摩川の支流の高橋川の谷に向かう山越えの道で海抜 1520m。10時30分まで小休止。
うんざりするような林道歩きが終わり、12時30分に笠取小屋に到着。ここは気温14℃。睡眠不足でばて気味でもう動く気がしないが、空身で頂上を往復することにした。

笠取山（1953m）、快晴で目の前に大菩薩がデンと立っていて、つぼみの割れかけた石楠花でいっぱいの山頂を楽しんだ後、雁峠の草原があまりにも気持ちよさそうなので腰を下ろすことになった。燕山方面を眺めてぼーっとしているうちにいつしか二人とも眠ってしまったようだ。ふと我に返り時計を見るともう一時間も経っているではないか。隣でいびきをかいている加藤を起こして小屋に戻った。小屋は60人ほどの入りでほぼ満員の状態。（素泊まり250円）
15時半から夕食の仕度を始めて、雑談しながら食事を終えたら17時半だった。
夕食は、キャベツの味噌汁とメザシにタクワンで、お米は一人あたり1．2号。昨晩ほとんど眠っていないのであっという間に眠りについてしまった。

昭和 39 年 5 月 4 日（ガス時々小雨）
起床　5時、霧雨で気温は4℃。朝食のおかずは鯖の味噌煮とタクワン。6時15分に出発。
昨日昼寝の寝坊をした雁峠を6時35分に抜けて、草原を西へ登り、燕山を7時15分、古礼山（2112.3m）を8時45分に通過。古礼山から北に向きを変えると水晶山（2158m）への登りが始まる。
雁坂小屋に9時15分到着。軽食をとって 10時30分に出発。
雁坂峠（2050m）10時50分、朝のうちの霧雨もここまで来たら乳白色の霧の海。10m離れると加藤の姿もぼやけて見える状態。景色を楽しめる状況でもないので11時05分に出発。
峠の北西側の雁坂嶺は 2289m、北側に大きな尾根を張り出してどっしりと座っている感じがする。コチコチに凍り付いた残雪がじわじわと融けて泥沼を作っているので歩きにくいこと甚だしい。
破風山は双耳峰で東破風と西破風の二つの突起がある。遠くから見ると屋根の破風に見えることからこの名がついたらしい。東破風（2280m）12時40分、10分の休憩をとり、チョコレートでスタミナ回復を図る。西破風（2318m）が破風山の頂上になっている。時刻は13時25分、少々腹も減ってきたので遅めの昼食をとり14時30分迄休憩。
どろんこ道、凍り付いて滑りやすい道、さらに岩場も加わって、重い荷物を背負って歩くので足元への注意力の集中は疲れる。おまけに、あいにくの天気で景色も何も見えない。まあ、とりあえず食べることだけを楽しみに歩き続けるしかない。破風山を下ると避難小屋があるところが海抜 2079m、ここから木賊山への標高差約 500mの登りが始まる。木賊山三角点（2469m）で小休止をとり、木賊山と甲武信岳の間のコルに建つ甲武信小屋に16時30分に到着。昨年の夏以来二度目の甲武信小屋、旅の最後の夜はコンビーフとキャベツの味噌汁にご飯、おかずはのり玉とキャベツの即席漬け。わざわざ運んできた一握りのお茶を大事に飲んだ。（小屋は素泊まり250円）
これで奥秩父の主脈稜線は雲取・飛龍間を残すのみ、五万分の一の地図に赤い筋が引かれる日も近い。

昭和 39 年 5 月 5 日（曇り）
起床3時半、最終日の朝も天気は曇りで気温4．5度。朝食のおかずはサンマの蒲焼き缶詰にタクワンと味噌汁。出発は4時55分。

まずは甲武信岳山頂へ。曇り空で甲武信岳からは富士山は見えず。比較的近くにある八ヶ岳がぼんやり見える程度。金峰山はわずかに雪を付けている。甲武信岳は大河を発する分水嶺で海抜 2475mの風格ある山なのに三角点がないのが寂しい。朝の5時10分の山頂は静かで良い。曇り空で富士山は見えない。近くの金峰山・国師ケ岳はよく見えるがその先の八ヶ岳はかすかにしか見えない。5時半に山頂を出発。
三宝山（2483m）5時55分、キジ撃ちの為の小休止。

踏　み　跡　＜　My　mountains　＞

（上写真：三宝山一等三角点で記念撮影）

武信白岩山（2270m）7時15分、大山（2225m）7時55分、ガスで何も見えない上に下りの気楽さもあって休むことなく通過。

十文字峠（1960m）8時35分。ここは古くからある佐久と秩父の大滝を結ぶ峠道。樹林帯に入り近場の景色も遂に見えなくなった。下りの途中で小休止している男が、どこかで見覚えがある。立ち止まって声を掛けてみたら、牛込郵便局でアルバイトをしていた頃の仲間の穴吹君だった。数年ぶりの再会が奥秩父の山中とは、何とも奇遇としか言いようがない。

八丁坂を下って千曲川の畔に出ると、遂に下界に下りたなという感じがする。

梓山に11時10分に到着。11時30分発のバスで信濃川上へ出て小渕沢経由で帰った。

帰りの車中、穴吹君も交えての山談義が弾んだ。彼が言うには「乾パンにマヨネーズをつける」と食べやすい味になり栄養価も高くなるとのこと。

以降の山行での食事メニューとして非常に役立ち、特に冬山での行動食としてはかなり有効だった。

以上

（修正・更新：2023年10月）